

公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰を受賞して

JCHO さいたま北部医療センター
堀江 好一

このたび、平成 27 年度公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰を拝受致しました。

平成 28 年 3 月 8 日、ピシッとスーツを着込んで職場へと向かい、14 時からの式典に備えておりました。12 時を過ぎたころ電話があり、緩和ケア病棟に入院中の義父が息を引き取ったことを知らされました。1 年前まで一緒にゴルフをしていたくらい元気だった義父の命日と、表彰式が重なるという、忘れることのできない日となりました。

表彰式を欠席し、この原稿を書いている今も表彰状が手元にないので写真を載せることもできませんが、厚労省の Press Release には「多年にわたり公衆衛生事業のために献身的活動を続け、その功績が特に顕著であり、その事業に携わる者の模範となる者を表彰するものである」と書かれています。診療放射線技師として 31 年間働き、技師会の理事も長くやっておりますが、診療放射線技師の模範といえるかと問われたら、そんな自信は全くありません。昨年、義父に Stage IV の大腸がんが見つかり、その後の治療について相談されましたが、自分は病気のことや治療のこと、チーム医療のことも意外と知らないことを痛感しました。病気を患っている人を多く見てはいますが、治療の甲斐なく亡くなっていく人を見届けるということはほとんどありません。そんな中、緩和ケア病棟の看護師の方々の献身的な対応には頭が下がる思いでした。自分がうわべだけの医療スタッフに思えてくるほどでした。今回の受賞は、これを機にもっともっと知識を深めなさいという義父からのメッセージのように思えてきました。

最後に、表彰に当たりご推薦いただいた本会、田中会長はじめ、理事、表彰委員の方々に深く感謝申し上げます。

公衆衛生協会会長表彰を受賞して

丸山記念総合病院
濱守 誠

このたび、平成28年3月8日大手町サンケイプラザホールにて、一般財団法人日本公衆衛生協会会長表彰を受賞させていただきました。この名誉ある表彰を受賞するに当たり、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の役員・会員の皆さま、そして職場のスタッフに深く感謝申し上げます。受賞に当たり、芦葉理事より話を聞き辞退を伝えましたところ、田中会長より直接電話がありました。しかし、私以上に受賞にふさわしい諸先輩方がいるのではと辞退を申し入れましたが、表彰委員会の強い推薦であるとのことで、名誉ある受賞を頂くことに致しました。

しかし、技師生活40年、受賞に値する仕事をしてきたかと今でも思い起こす次第です。受賞功績として『診療放射線業務を通じて地域住民の健康維持に尽力』とありますが、間接的に尽くしたのかなと思っています。また『診療放射線技師の育成指導に尽力』とありますが、特別に育成指導を行ったとは思っていません。当院の今までのスタッフに恵まれ、歴代の技師会役員の方々や会員の方々に多少なりにも名前を覚えてもらったのが、私の財産であり、受賞に結びついたものと思っております。ありがとうございます。

最後に、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のますますのご発展と会員皆さまのご活躍、ご健勝をご祈念申し上げます。



公衆衛生協会会長表彰を受賞して

埼玉県済生会川口総合病院
結城 朋子

表彰式は平成28年3月8日、大手町サンケイプラザにて「公衆衛生事業功労者厚生労働大臣賞」、「公衆衛生事業功労者一般財団法人日本公衆衛生協会会長賞」「地区衛生組織活動功労者一般財団法人日本環境保健活動団体連合会会長賞」と3つ合同で行われ、それぞれの賞一人一人が紹介された後、代表者に表彰状と記念品が手渡されました。表彰式には、主に看護職の年配の方が多く参加されていました。このような中、診療放射線技師でまだまだ若輩ものの私が、頂いてもいいものかとも思いました。この年齢まで長く診療放射線技師として仕事を続けてこられたこと、また技師会活動が続けることができたこと、全てにおいて家族、同僚、技師会役員の皆さまのご理解とお力添えがあって受賞できたものと感謝の念に堪えません。これからも診療放射線技師の一人として、今回の受賞に恥じないよう日々の仕事に、技師会活動に従事していきたいと思えます。

最後になりましたが、本賞受賞に当たり公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会長さまにおきましては、ご推薦いただき誠にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

「県立高校放射線特別授業」

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 会長 田中 宏

平成23年3月11日の東日本大震災に伴う原子力発電所の事故をきっかけに、文部科学省から放射線に関する副読本が各学校へ配布された。連日聞きなれない言葉がマスコミで飛び交い、その分かりにくい専門用語が国民へ大小の不安を与えた。これまで、放射線に関する知識を学ぶ機会がほとんどなかったことが原因であり、現在は多くの学校で放射線に関する副読本を使用し、学校ごとで放射線に関する授業を行っている。

学校教育の現場では、主に理科の教員が対応をしているが、学校によっては外部からの講師を招聘しており、その放射線特別授業を請け負う団体や組織は多数存在する。

埼玉県診療放射線技師会は職能団体であり、法人の目的は埼玉県民のためにある。これまで県民に対する放射線啓蒙活動として学術大会における市民公開講演、各市町村や医師会で開催される健康祭りへの参加、各市民団体による放射線に関する講演、これらに伴う被ばく相談などを行ってきた。今回、埼玉県診療放射線技師会が放射線特別授業に参加することは、学校の正式な授業の一環として、診療放射線技師が教壇に立ち、放射線に関する最も身近な専門家として教鞭を持つことは、学生にとっても有効だと考えている。

この事業計画を進めるに当たり、学校へ直接依頼する方法と教育委員会へ依頼する方法があるが、本会では後者の方法を選択した。その理由は、教育委員会へ直接訪問し、本会の事業説明や放射線特別授業へ参加する趣旨、内容を説明し理解をしていただいた。放射線はデリケートな分野であり、政治的な意図がないということを理解していただくことが大切である。学校側も埼玉県診療放射線技師会が教育委員会で説明を行っているということが、埼玉県診療放射線技師会に対して

の信頼へつながる。

この事業は公益事業ということで、埼玉県からは無料で受けている。講師は本会会員で委員会を設置し、その中で必要な知識、講義の方法を習得した診療放射線技師から講師選出規程に基づいて派遣される。一般の方々への放射線の説明は、学会や研究会での講義の内容とは大きく変わる。そして患者、一般市民、また学生への講義ではそれぞれ説明に使う用語や方法は異なる。また授業の講義を受け持つには、質問や疑問の範囲は多岐にわたるため、幅広い時事問題や一般常識も必要になる。これまで本会から数多くの講師にご協力いただいているが、診療放射線技師としてだけでなく、社会人として勉強になったというコメントを頂いている。

本事業は平日に学校で講義する必要がある、特定の講師に負担がかからないよう、数多くの会員に講師として参加していただき、事業を拡大していきたいと考えている。現在は県立高校だけに限っているが、今後、講師が増えれば、将来は中学校や小学校にも拡大していきたいと考えている。

興味を持たれた会員の方がおりましたら、お近くの役員や埼玉県診療放射線技師会へお問い合わせをいただければ幸いです。

「放射線について考える」特別授業の講師を担当して

東松山市立市民病院 工藤 安幸

1. はじめに

今回の「特別授業」について振り返ると、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の小川清前会長から、すでに抱いていたその構想の話をされたことに始まる。確か平成24年度の埼玉県診療放射線技師学術大会の時に協力を依頼され、とても有意義で大切な活動だと共感したことを覚えている。

私事ではあるが、原発事故が起きた平成23年3月以降、特別授業を行うまでの間に、自治体職員、地域健康推進員、病院職員、小学校PTA、保育士、地域医療職の研修会や県民公開講座の場で、「わかりやすい放射線・放射能の話」の講演の経験があった。

この時期、自治医科大学RIセンターの菊地透氏は、医療防護連絡協議会発行の医療放射線防護(No.71, 31-38, 2015)の中で、「医療関係者に対する放射線防護に関する教育訓練」と題し、「わが国の放射線教育は、義務教育の小学校・中学校、さらに高校・大学教育においても、長い期間実施されていない。また医療関係者への放射線防護の教育訓練に対してもほとんど実施されていない。今回の福島原発事故災害を契機に、最近、義務教育・高等教育課程における放射線教育が勧められている。しかし、現状では放射線教育を行う教師の人材不足が課題となっている」と述べていた。

また当時、東京電力(株)のHP上で示されていた資料(平成25年6月27日付)によると、[福島第一原子力発電所1～4号機の廃炉措置等に向けた中長期ロードマップ]として、「廃炉作業は、使用済燃料貯蔵プールの燃料や原子炉内部に溶解落ちた燃料を回収してから進められることになり、作業完了までは30～40年かかると考えられています」とあった。

これらのことから、近い将来の社会を担う高校生に、放射線に関する正しい知識を身に付けても

らうために、高校生を対象に分かりやすい出前授業「放射線について考えよう」を行うことが、田中宏会長の下決定された。

平成26年に特別授業運営委員会が結成され、そのメンバーとなった私は、第2回目として、6月10日に、埼玉県立川越西高校の授業を担当した。

2. 授業報告

この高校に伺って、複数台の放射線測定機器を所有していたのに驚かされた。実は放射線を実感として捉えてもらうために、GMサーベイメータを持参していたからである。担当教諭は放射線に詳しい先生で、原発事故後、雨どいの排水溝付近の線量測定を行っていたという。一部の生徒はもとも、比較的理解度が高く、私が例え話を交えて丁寧な解説した講義は、むしろ物足りなさを感じさせてしまったようであった。

これまで講演などで、関心のある人たちの前で話をする機会が多かった私には、今回の授業という場面では、関心や理解度の違う生徒たちに、限られた時間内に分かりやすく説明しなければならず、率直に学校教育の難しさも感じられた。ただ知識を吸収する年齢の真ただ中にいる高校生たちに、説明した内容を素直に受け入れてもらえたことは、私にとってとても貴重な経験になった。

授業後に行ったアンケートで、感想のコメントの中からいくつかを以下に示した。

○今回の授業はとても良く、勉強になりました。もう少し時間を多く取れば、もっと多くのことを学べると思います。

○最初は放射線は恐ろしいイメージが大きかったが、今回の話を聞いて、放射線全てが怖いわけではない、ということが分かったので安心です。

○放射線の話は例えがあって分かりやすかった。
 ○放射線は兵器とかだけでなく、医療の分野に使われていたことにビックリした。これからも新しい使い方を発見してほしい。
 ○放射線は使い方によっては、この世界の発展にもつながり、便利な世の中になるということと、とても恐ろしいものにもなるということ、という放射線の二面性が知れてよかった。とても勉強になってよかった。
 ○知っていることも結構多かったと思いました。いかにメディアが原発を、恐れ怖がらせているかが分かりました。
 ○放射線については知っていることが多くつまらなかったです。ですが病院での放射線の扱いについては詳しい使い方など、新しい事が学べて面白かったです。
 ○食べ物の中にも放射性物質が含まれているのに驚きました。今までは放射能を浴びると危ないといわれてきましたが、まず放射能とは、作用という意味だったのを初めて知りました。また、がんの影響があまりないということで、少し不安がなくなりました。
 ○原発事故の時から、インターネットやTVなどで情報を得ていたのですが、さほど不安には思っていなかったが、今回の話で情報の信ぴょう性も持つことができました。これからはしっかり情報を得て冷静に対応していきたいと思いました。
 ○放射線によるがんの発生率は、そこまで高くないということに安心しました。さらに発生率を下げるためにも、健康な身体作りを心掛けようと思います。放射線についてたくさんを知れて、とても勉強になりました。

授業後に担当教諭から「事前に知識がない生徒たちにも大変丁寧に講義していただき、たくさんのことを学ぶことができました」とお礼のメールを頂いた。

3. まとめ

生徒の理解度には個々に相応の差があり、事前

に先生と十分に打ち合わせすることが重要であると感じた。また講義の前後で生徒にアンケート調査をするので、1コマ45分の授業では実質35分と短く、説明する内容を厳選する必要がある。

事故当時は、連日のようにニュースや新聞などに取り上げられ、本も多数出版された。それにより多くの国民は理解が深まったと推測される。

事故から5年の年月がたち、現在の高校生は当時小学校の高学年で、今後は低学年の世代が高校生になっていく。

昨今、世論の関心がやや薄れつつある中で、しかし、廃炉などに関わる社会的な影響が、この先数十年も続くことを考えると、私たち埼玉県診療放射線技師会が公益社団法人として、この「特別授業」の活動を継続的に行っていく必要性は大きいと考えている。

「放射線特別授業に講師として参加して」

埼玉県済生会栗橋病院 内海 将人

1. 参加のきっかけ

私は平成26年度より埼玉県診療放射線技師会公益委員として会務に携わっている。平成27年度より放射線特別授業運営委員会が公益事業の一環として、公益委員会下に組織されたことをきっかけに、特別授業准講師育成講習へ参加させていただいた。その結果、准講師、講師として2度、高校へ派遣された。



図1. 持参したバリウム製剤とヨード造影剤

2. 准講師として県立常盤高校へ

県立常盤高校は、埼玉県唯一の看護師養成高等学校である。2コマの授業時間を与えていただき、時間にゆとりのある授業が開催できた。私は准講師として講師の補助と「診療放射線技師の仕事とは」をテーマにした。学生にとってあまり馴染みのない職業であろうから、少しでも画像診断を身近に感じてほしいと考え、当院で使用しているレントゲンフィルム、バリウムやCT用ヨード造影剤シリンジ(図1.2)を持参した。医療現場で実際に使用している道具を手にとって、触る、見る、という経験が、一番診療放射線技師を間近に感じることができるのではないか、という考えからであった。学生はそれぞれ手に取って実際に触れながら、フィルムを見ながら講義を熱心に聞いていた。看護師養成校という校風から参加された女生徒が9割を占めており、一つのトピックへの反応が大きかったのが印象的であった。高校生への授業ということで講義を始める前は非常に緊張していたのだが、いざ話し始めてみるとスラスラと話すことができた。



図2. 持参した頸椎XP
(筆者が交通事故時に撮影したもの)

3. 講師として県立川越西高校へ

県立川越西高校へは講師として派遣された。講師は「放射線について考えよう」という基本テーマを基に講義する。この内容は、文部科学省が2015年に発刊した「中学生、高校生のための放射線副読本～放射線について考えよう～」の内容に準拠しつつ、講師のオリジナリティを入れることも許されている。各高校から特別授業依頼時に「このような内容を学生に教えてほしい」というテーマが与えられることがあり、今回は「放射線の人体への影響」に重きを置いて話してほしい、という依頼であったため、その意向に沿ったスライド作りを心掛けた。単純な文字の羅列だけで

は、飽きられてしまうと思い、霧箱を撮影した動画（図3）を流し、放射線を言葉だけではなく見ることによって理解を促そうと試みた。またなるべく学生が興味を引きそうな身近な話題から、伝えたいテーマを説明するというように、自分の身に起こっていることを感じて考えてもらうよう、飽きのこない工夫を凝らした。授業当日は雨だったため、教室の窓が閉じられていたので「この教室には壁からラドンという放射線物質が放出されていると思われ、窓が閉じられている現在では、外よりも被ばく量がわずかに多くなります（図4）」と説明すると、学生は驚いた表情を見せていた。依頼された教諭が学生に対し、放射線についての予習プリントを配布してくださっていたこともあり、スムーズな授業が開催できた。

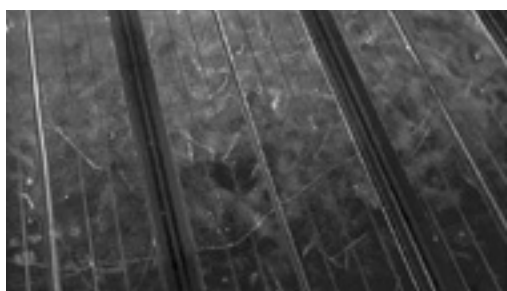


図3. 霧箱の動画スライド

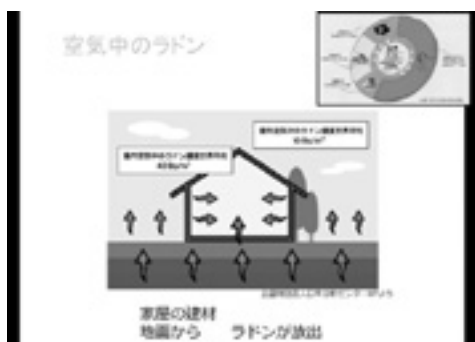


図4. ラドンは部屋の壁などからも放出されていることを説明するスライド

4. 出張授業の有効性と将来

放射線や被ばくに関しては、高校の教員でも理解し説明や教育することが難しい領域であり、そ

れらのスペシャリストであるわれわれが分かりやすく説明することで、理解しやすいのではないかと。出張授業中に教諭からの質問も何度かお答えした。また将来の高齢化社会を踏まえ、医療や介護業界のニーズは増加傾向であり、数年後の医療業界を目指す学生へ現状やアドバイスなどが見込めるなど、実際に病院、医療現場で働いている診療放射線技師から話を聞けることは高校側にとってメリットといえる。技師会としても診療放射線技師という職業を知ってもらえるというメリットがある。今後も本活動を継続していくことは、診療放射線技師会にとっても学生にとっても有用であると考えている。

5. 最後に

講師、准講師として貴重な体験の機会を与えてくださいました放射線特別授業運営委員会の皆さま、埼玉県診療放射線技師会の皆さまに深くお礼を申し上げます。

「放射線特別授業講師の体験談」

深谷赤十字病院 成田 麻美

1. はじめに

今回は出張特別授業でどのような授業をしたか、またその体験談を書くことになっていますが、授業の内容は経験豊富な他の先生方が説明してくださると思いますので、私は体験談の方に重心を置いて書かせていただこうと思います。

2. 准講師候補者講義

この特別授業の活動は、埼玉県診療放射線技師会（以下、埼放技）第4支部の会長であり、当院の大先輩でもある齋藤さんに教えていただいて初めて知りました。その時に講師の募集をしているから、興味があるなら参加するよう勧めていただきました。技師歴6年目の技師としても、人としてもまだまだ未熟で、大役を果たせる自信もありませんでしたが、放射線について一般の方々に広く知ってもらおうお手伝いを微力ながらできればと思い、立候補しました。また恥ずかしながらあがり症で発表も不慣れなため、それらの克服も密かに重大な目的の一つと考えていました。

さて、講師として教壇に立つためには、まずは公益委員会の主催する勉強会に参加し、准講師候補として登録します。次に正講師の先生に付き添い実際に「診療放射線技師のお仕事」の授業を行います。その様子は録画され、録画した授業について後日委員会で講評を受け、正講師と認定されます。

私の場合、いきなり准講師として授業を行うのはハードルが高く、依頼して下さった高校にあまりに申し訳なく思えたため、お願いをして授業の見学からにさせていただきました。

お邪魔したのは、看護師養成高校である常盤高校で、間に休憩をはさんだ90分の授業でした。その時の正講師は上尾中央総合病院の佐々木さん、准講師は済生会栗橋病院の内海さんでした。

授業の流れは何となく理解できたものの、佐々木さんも内海さんも生徒さん達の心を鷲掴みにしていたので、私には無理では・・・？と返って不安も大きくなってしまいました。

3. 准講師

そのおよそ半年後の平成27年5月上旬、准講師のご依頼をいただき、せっかく来たお話しですので、有難く受けさせていただきました。6月上旬に、川越西高校で「診療放射線技師のお仕事」について授業が決定しました。しかし、上手くまとめることができず、内海さんの授業スライドを使わせてもらいました。さらに当日は、緊張と不安で、何をどう話したのかほとんど覚えていないのですが、内海さんがフォローしてくださったおかげで、何とか無事に終えることができました。後日の委員会でも推して下さり、正講師として認定していただいたのですが、人に伝えることの難しさと自身の力不足を痛感したので、もっと知識と理解を深めなければならないと感じました。

4. 講師

そして正講師として授業をしてみないかと、丸山記念総合病院の芦葉さんに誘っていただき、平成27年11月27日に寄居城北高校で「放射線」について授業することが決まりました。授業を受けてくださるのは看護師志望の15人の生徒さんたちです。スライドを作成するに当たり、他の先生方の授業スライドやアドバイスをたくさん頂いて、何とか完成しました。ですが、あれもこれもと詰め込んでしまい、30分の授業時間に対して、スライド枚数が50枚を超えてしまいました。時間厳守は絶対ですから、30分以内に収まるように何度も練習をしましたが、不安を残したまま当日を迎えてしまいました。

授業は午後からだったので、お昼少し前に仕事を抜けさせていただき、寄居城北高校に向かいました。食事をもとにもできないほど緊張していましたが、合流した芦葉さんの落ち着いた態度と優しい笑顔と言葉に励まされて校舎に入りました。

授業がいざ始まると、やはり緊張して余裕など皆無でしたが、生徒さん達が私の拙い話をしっかり聞いてくれて、反応を返してくれて、理解しようとしてくれて、スムーズにはいきませんが、何とか授業を終えることができました。続けて芦葉さんが「診療放射線技師のお仕事」について授業したのですが、生徒さん達の反応を見ながら、それに答えるように授業をしていく様子がお手本を見せていただいているようで、とても勉強になりました。スライドの一例を図1～図4に掲載します。

5. さいごに

今回の授業も成功したとはとてもいえませんが、授業時間（制限時間）に合わせて何パターンかスライドを用意しておくこと、スライドに対して原稿を作らないなどアドバイスをいただきました。今後も、より分かりやすい授業を生徒さんに提供できるように研鑽を重ねて、放射線について正しく知ってもらうためのお手伝いや、興味のきっかけになればと思います。

最後に、アドバイスやサポートをしてくださった諸先生方や、私が授業に行くことを快く送り出してくださる当院のスタッフに、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



図 1.



図 2.



図 3.

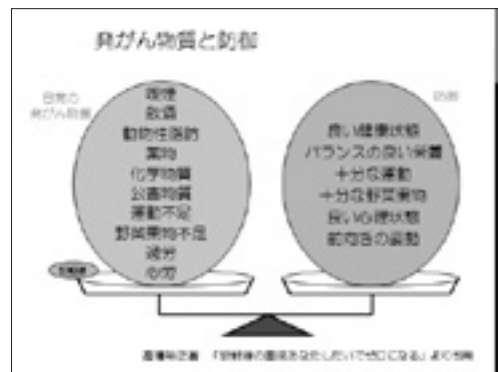


図 4.

「特別授業「放射線について考えよう」アンケート評価」

丸山記念総合病院 芦葉 弘志

1. 【はじめに】

埼玉県診療放射線技師会（以下、技師会）では、福島第一原子力発電所事故により文部科学省から配付されている「放射線に関する副読本」を使用して、平成26年度より放射線啓蒙活動の一環として放射線特別授業運営委員会を組織し「放射線について考えよう」の特別授業を県立高等学校で行っている。

2. 【目的】

特別授業の際、生徒に対しアンケート調査を行った。この授業が有用であったか検討をする。

3. 【方法】

平成26年4月より平成27年3月までに3校4授業を行った。その際授業の前と終了後に生徒にアンケート調査を行った。アンケートは無記名、10段階評価を使用し、1、放射線についての理解 2、放射線についての不安度 3、授業内容について その他（全体を通しての意見をご記入ください）という欄を設けた。

A 高等学校21人 B 高等学校30人 C 高等学校2学年74人 C 高等学校3学年76人 合計201人の有効回答数にて検討を行った。

4. 【授業内容】

文部科学省から出されている「中学生・高校生のための放射線副読本」に沿った内容で委員会にて検討して行なった。

- ①福島第一原子力発電所事故
- ②原子と原子核
- ③放射線の種類と性質
- ④放射線による影響
- ⑤放射性物質に対する防護
- ⑥退避や避難の考え方

放射線技師のお仕事紹介（図1）

授業風景を図2に紹介する

5. 【結果 1】

4 授業平均点数 授業前理解 4.55 授業後理解 7.88 理解向上度 3.33 授業前不安度 4.96 授業後不安度 7.31 不安解消度 2.35 授業内容 8.65（図3）であった。

理解度、不安度についてZ検定（有意水準0.05）を行い、ともにp値0.0001以下であった（図4）。授業の前後で放射線に関する理解が得られた。授業の前後で放射線に関する不安は解消された。という結果となった。

6. 【結果 2】

ここに生徒からの意見を記載する

- ①今まで放射線と放射能の違いや、体にどういふ影響があるのかなど全く分からなかったけど、今回の授業でとてもよく分かりました。
- ②今まで放射線は危険なものだと思っていましたが人体に大きな影響があるのは基準を超えたときだけだと聞いて少し安心しました。
- ③放射線についてマイクロシーベルトなど分からなかったけど、今日やっと分かってよかった。とても良い勉強になったと思う、この事を家の人や、友達に伝えたらよいと思う。

授業後に担当教諭からのお礼もあった

本日は、〇〇先生、〇〇先生にはお忙しい中、ご来校いただきありがとうございます。〇〇先生には診療放射線技師に関するいろいろな伺うことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

これらのことは生徒はもちろんですが、私も今後の指導に役立てられると思います。両先生方にもよろしくお伝えください。

本日は本当にありがとうございました。機会がありましたらまたお願いします。

別の高校からのお礼もあった

昨日は特別講義を行っていただきありがとうございました。

生徒も放射線に関する正しい知識が得られ、看護師として働きたいとさらに感じていたと思えました。来年度以降も実施させていただければと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

7. 【考察】

放射線に対し、授業前では不安が大きかったが、授業の後ではその不安が解消されていることを考え、正しく利用すれば安全であるということ十分に理解できたと考える。各高等学校ごとに講義を行う講師は同一ではなく、授業のバラツキが生じないように技師会組織として委員会を設立し定期的な勉強会を開催している。今後は公益活動だけでなく、会員教育としてもこの活動を役立てたい。

8. 【まとめ】

学校教育の現場に、診療放射線技師が関わることは有効である。さらに公益活動だけではなく、会員の人材育成という効果も期待できる。

9. 【謝辞】

今回の内容は昨年千葉で開催された、平成27年度関東甲信越診療放射線技師学術大会に学会発表し日本診療放射線技師会より「優秀な研究発表に対する学術奨励賞」を受賞した。関係各位の協力の下、頂いた賞であり、ここに感謝申し上げます。



図1.



図2.

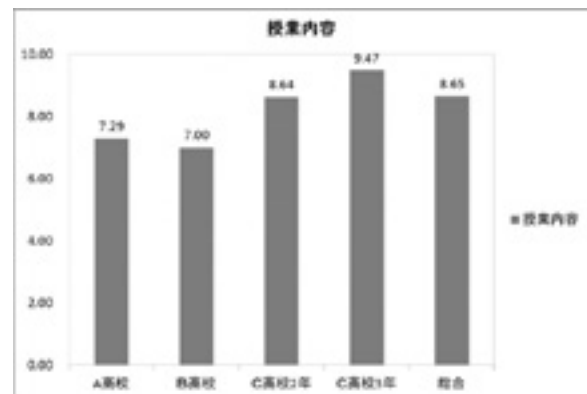


図3.

	授業前平均	授業後平均	差	P値	有意差
4校舎 総合	4.55	7.88	3.33	0.0001以下	有り
	授業前安心度	授業後安心度			
	4.96	7.21	2.25	0.0001以下	有り

図4.

平成28年 新春の集い 開催報告

総務常務理事
結城 朋子

平成28年1月8日、恒例となっております「平成28年新春の集い」が、大宮サンパレス・グランツにて開催されました。毎年この時期、新年のごあいさつや顔合わせ、また情報交換の場として例年多くの会員の皆さま、賛助会員の皆さまにご参加いただいております。今回の出席者は91人、このうち埼玉県診療放射線技師会の新しい会員となった新入会員15人の皆さんにもご出席いただきました。

開会のごあいさつの後しばらくはご歓談いただき、雰囲気になれたころ、新入会員の皆さまには自己紹介を兼ねて自分はどうのような診療放射線技師を目指すのか、将来の豊富も合わせて一人一人お話をいただきました。また日ごろお世話になっております賛助会員の皆さまにも、短い時間ではありましたが、スピーチをしていただきました。

終始和やかな雰囲気のなかあつという間の2時間でした。

最後にお忙しい中、ご参加いただきました会員、賛助会員の皆さまに心より感謝申し上げるとともに、皆さまのご協力を賜り、執行部一同、当会の運営に努力してまいります。

今後ともよろしくお願い致します。



第15回上部消化管検査認定講習会 開催報告

学術常務理事
今出 克利

平成28年1月17日（日）に、第15回上部消化管検査認定講習会をさいたま赤十字病院で開催しました。受講者数は19人で、午後からは埼玉消化管撮影研究会との合同開催となり、全体での参加者は45人でした。今年は、東京都がん検診センターの入口先生をお招きして、読影と病理について講演していただきました。病変発見時の動画や内視鏡画像、病理組織像との対比など、普段目にするのでできない貴重なスライドを準備していただき、受講生も大変勉強になったことと思います。ただ、講義時間が足りなかったため、全てお聞きできなかったのは残念ですが、また次の機会に講演していただきたいと思います。講習会のプログラムは下記の通りです。

プログラム（敬称略）

平成28年1月17日（日）：上部消化管撮影 認定講習会

9：00～9：30	受診者管理（検査説明・接遇・情報管理）	志田 智樹（レインボークリニック）
9：30～11：00	X線透視装置の基礎：画質：性能評価	遠藤 亜矢子（株式会社日立製作所）
11：00～12：00	被ばく管理	工藤 安幸（東松山市立市民病院）
12：00～12：30	造影剤のリスクマネジメント	竹内 修平（伏見製薬）

埼玉消化管撮影研究会と合同開催

13：30～15：30	上部消化管の読影と病理	入口 陽介（東京都がん検診センター）
15：30～16：30	上部消化管撮影技術	今出 克利（さいたま市民医療センター）
16：30～17：30	精密検査法およびレポート作成	大森 正司（さいたま赤十字病院）

終わりに、東京都がん検診センターの入口先生、日立製作所の遠藤さま、伏見製薬の竹内さま、講義を担当していただいた技師の先生方、また当日、会場準備や運営にお手伝いいただいた埼玉消化管撮影研究会の世話人、バリウムメーカーのMRの方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます。



入口陽介先生



平成 27 年度 第 7 回 CT 認定講習会 開催報告

学術理事
城處 洋輔

平成 28 年 1 月 24 日（日）に、第 7 回 CT 認定講習会が済生会川口総合病院の東館講堂にて開催され、他県からの参加者も合わせ 26 人が受講された。前半は、分野ごとに CT 検査における解剖を含めた基礎から臨床症例を交えた実践的な内容であり、後半は、TDC の理解を中心とした造影技術、装置の性能評価やプロトコル構築のために必要な物理特性について講じられた。物理特性実習では事前に撮影したファントムデータを用い、受講生がエクセルを用いて真剣に解析する姿勢が見られた。また自由参加としたファントム作成実習では、和やかな雰囲気の下参加者同士楽しみながら作成する様子が見られた。当日のプログラムを以下に記す。

受講生の皆さま、また講義や実習を担当された講師の皆さまには、この場をお借りしてお礼申し上げます。

CT 認定講習会 プログラム

8:20 ~ 8:40	受付		
8:40 ~ 8:45	オリエンテーション		
8:45 ~ 9:45	救急 CT の撮影法、読影講義	佐々木 健	上尾中央総合病院
9:50 ~ 10:50	胸部 CT の撮影法、読影講義	染野 智弘	羽生総合病院
11:00 ~ 12:00	腹部 CT の撮影法、読影講義	八木沢英樹	JCHO 埼玉メディカルセンター
13:00 ~ 14:00	頭頸部 CT の撮影法、読影講義	富田 博信	済生会川口総合病院
14:10 ~ 15:10	造影技術概論	中根 淳	埼玉医科大学総合医療センター
15:20 ~ 16:20	物理特性講義	柴 俊幸	所沢ハートセンター
16:30 ~ 17:30	実習 1 (MTF、SSPz 測定用ファントム作成)		
17:30 ~ 19:30	実習 2 (MTF、SSPz、NPS)	柴 俊幸	所沢ハートセンター
		志藤 正和	済生会川口総合病院
		城處 洋輔	済生会川口総合病院



講義風景



ファントム作成実習

平成 27 年度 乳腺画像セミナー 開催報告

学術理事
岡田 智子

今回のセミナーでは、初心者が乳腺診療に関わる際に役立つ基礎知識として、画像所見と病理を交えた講義内容を企画しました。そして座学で得た知識の復習として読影実習を 40 症例行いました。マンモグラフィでは、カテゴリー分類だけでなく、画像所見と病理を理解することで一歩先に進んだ読影が行える講義内容でした。超音波検査については、実際に検査に従事していない受講生が多かったですが、講義内で動画を用いて詳しく説明していたこともあり、受講生からも非常に好評でした。乳腺 MRI 検査の基礎は、乳腺診療における MRI 検査の役割から実際の MRI 画像、撮像シーケンスなど基礎からの講義内容になっており、初心者でも分かりやすく理解できたと感じました。最後に、まとめとして実際のマンモグラフィの読影を受講者に行ってもらった後に、画像所見、カテゴリー、最終病理診断を解説しました。

セミナー終了後のアンケート結果として、おおむね良好な結果でした。今回、非会員の参加が多くまだ乳腺画像セミナーの需要があると感じることができました。今後は、読影実習にさらに力を入れつつ、フレッシュアップからステップアップしたいベテラン技師にも満足してもらえる内容を企画していきたいと思えます。

最後に、お忙しい中ご講演いただいた講師の皆さま、ならびにセミナー運営のためにご尽力いただきましたさいたま赤十字病院尾形技師長に心より感謝申し上げます。

日 時：平成 28 年 2 月 7 日（日）10：00～17：20

場 所：さいたま赤十字病院 本館 5 階 講堂

受講者数：会員 30 人、非会員 11 人

プログラム

読影における基礎（MMG と病理）	済生会川口総合病院	土田 拓治
読影における基礎（US と病理）	埼玉協同病院	新島 正美
読影における基礎（MRI と病理）	埼玉県立がんセンター	辻村 明日香
実習 1：読影		
実習 2：読影		
読影解説	さいたま赤十字病院	岡田 智子

第4回 Freed セミナー報告

上尾中央総合病院
佐々木 健

平成28年2月13日に、第4回となる Freed セミナーが開催されました。今回は「理想の上司」「理想の部下」は、どのような人物像なのかをテーマに、グループワークを行い、その後「リーダーの役割と人が動きたくなるコミュニケーション」の講義を行っています。案内文に記載したように、管理者と新人や若手スタッフをどのようにつなげるか、どう上手く付き合うか、参加者の方々と考えるよい機会となりました。

〈ディスカッション風景〉



以下にグループワークの結果とディスカッションの内容を紹介します。

第4回 Freedセミナー

開催日:平成28年 2月 13日

報告者:上尾中央総合病院 矢島 繁介

テーマ

- ◆理想の上司
- ◆理想の部下

上記について、ワールドカフェにてディスカッションを行った。

理想の上司

理想の上司とは「目標になれる(ぶちがたい)と思える上司」

<input type="checkbox"/> 1年以上の経験がある人 <input type="checkbox"/> 自信を持っていて責任感のある人 <input type="checkbox"/> 任せってくれる人(道筋を示してくれる) <input type="checkbox"/> 寄りを見てくれる人 <input type="checkbox"/> 困ったときに明確な指示を出すことができる人	まずは自分ができるようになる(経験) 突撃である必要はない 部下・後輩に任せる(責任感) 責任をもって育てる 底りがよく見えている(柔軟性) 的確な状況判断ができる
--	---

理想的ではない上司とは...?

- ・ 話が長く結論がない
- ・ 否定的
- ・ 保守的
- ・ 気分屋
- ・ 言い方がキツイ

理想の上司

理想の上司

- 日常会話をする
- 信頼してくれる上司
- やる気を出させる上司
- 感情が通じやすい
- 管理能力のある上司
- コミュニケーションをとれる上司

上司からの会話が大得意

コミュニケーション不足が原因

嫌いな上司

- 理不尽な怒り方をされる
- 人によっておこる反応が違う
- 人目には注意する
- 結果の前で怒られるのはイヤ

新進社員が大切とよく言われるが、上司との関係が悪くと嫌いな
 上司から周囲の良い関係を構築することで、
 新進社員やその成長を助けることができる上司が理想

『仕事を任せられた』と感じる時もあるが...
 ● それはあなたに任せられるからやるべきじゃない?

理想の上司

理想の上司とは寛大でビジョンをはっきり示してくれる人

具体的には...

- 肯定的である
- 部下にチャレンジさせる
- 自分自身も向上心を持っている
- 先を見据えた行動ができる
- 言っている事とやっている事が違わない
- アムとムチのバランスが上手

アムとムチのバランスは3:7が理想!

1人に対して組織全体が

褒める	叱る
3	7

理想の部下

人としての基本ができ、仕事に対して真面目に向き合える人間

次人・部下

- 文句ではなく意見が言える
- 助言を素直に聞き、すぐ実行できる
- 良好な人間関係を築ける
(コミュニケーション能力)
- 責任感がある
- やる気 実績
- 返事・挨拶ができる

⇔

実際可愛がっている部下

- レスポンスが良い
- 関わりが長く、よく話す
- 挨拶してくれる
- 協力家
- 面白い

仕事面よりも人柄が大切

理想の部下

⇒ 後輩にアクション・アプローチでさ、報・連・相が行える

一般職の理想	役職者の理想	困る部下
<input type="checkbox"/> 上司の行動で不足箇所を補える <input type="checkbox"/> 言い分を守る <input type="checkbox"/> 自分の考えを言える	<input type="checkbox"/> 自ら考え、行動する(調整) <input type="checkbox"/> 元気・やる気がある(粘り) <input type="checkbox"/> てきぱき動ける <input type="checkbox"/> 上司と同じことができる <input type="checkbox"/> 先を見据えられる(的確) <input type="checkbox"/> 業務改善ができる	<input type="checkbox"/> 考えが分からない <input type="checkbox"/> 反応ない <input type="checkbox"/> 反抗ばかり <input type="checkbox"/> 完璧すぎる <input type="checkbox"/> 期限が守れない

年代ごとに、理想像は異なる

理想の部下

⇒ 素直なのに生意気

理想像	別居って何？
<input type="checkbox"/> 言うこと聞く <input type="checkbox"/> 気ついて行動できる <input type="checkbox"/> ポジティブ <input type="checkbox"/> 意見を言える <input type="checkbox"/> 返事が言える <input type="checkbox"/> 自分で考えられる <input type="checkbox"/> 言葉の裏に気づける	<input type="checkbox"/> 笑顔 <input type="checkbox"/> やる気ある <input type="checkbox"/> 愛嬌ある <input type="checkbox"/> お洒落好き <input type="checkbox"/> 相談してくれる <input type="checkbox"/> 相談してくれる

上司の理想より、プラスして答えられる...
切磋琢磨し合える

まとめ(全体討論:今回は理想の上司について考えた)

<input type="checkbox"/> 部下とのコミュニケーションが上手な上司 まずは業務中(あそびがないとき等)の日常会話から 予算5000円から4000円のご飯の話 今まで聞いた映画の話 国内旅行の話	<input type="checkbox"/> 成長を促すことができる 自分の経験を伝える サポートして、部下をよく観察する	<input type="checkbox"/> 話がブレない 自分の考えを持つ 経験を話し→失敗体験も必要
---	---	--

結論:理想の上司とは 自分を持っていて人を育てられ、尊敬できる上司

第4回 Freed セミナーに参加して

埼玉医科大学国際医療センター
宮崎 千晶

診療放射線技師として仕事をしていくのに何が必要か。撮影の腕前、検査や医療の知識はもちろん、組織で働く社会人としてのスキルも必要なのではないか。技師歴10年目、組織の中でも中堅といわれる年代になりあらためて考え、今所属している組織をより仕事のしやすい現場にしたいと思い、セミナーに参加することにしました。

セミナーは2月13日土曜日、よく晴れた暖かい午後に行われました。ディスカッションと座学を交え約3時間、その後の楽しい懇親会、とても充実したセミナーでした。

ディスカッションでは、まず4人の違う病院の年代の違うメンバーが集まったグループで「理想の上司」「理想の部下」とはどんな人物なのかを話し合い、発表しました。私たちのグループの課題は「理想の上司」でした。グループ内ではさまざまな意見が出され、それぞれ経験談も交えながら「話しやすい人がいいけど、ほどよい距離感がほしい」「どっしり構えてフォローしてほしい」「肯定的にチャレンジさせてほしい」などたくさんの意見が出ました。が、どの意見も自分に当てはめてみると、、、まあ「理想」ですから。グループごとの発表を聞いてみると、どのグループも上司にも部下にも仕事の完璧さよりも少しミスや抜けている部分があっても話しやすく、元気があり、他人を考えられるなど、人間的な面が大切という意見がでました。

その後、佐々木講師から「リーダーシップコミュニケーション」の講座がありました。上司はリーダーシップ、部下はフォロワーシップを持ちそれぞれに役割があること、どうすれば部下を仕事に向かわせる姿勢にできるのかを学びました。中でも職場内の意見や質問には答えるだけでなく、答えに至る過程や考えを話して、相手がなぜその意見や質問に至ったのか意見に耳を傾ける「語って聴く」ことが大切であること、人が自ら動くためには「納得」が必要であること、そのためのコミュニケーションはどうすればいいのか、私自身とても納得できる内容でした。ぜひ職場に持ち帰り実践したいと思います。

セミナー終了後は楽しい懇親会もあり、お互いの職場の悩みを相談し合ったり、他院の対応策を聞いたりと大変身になる1日でした。

理想の上司になるには、理想の部下像を想像し、上司らしく先輩らしくではなく‘ありのまま’の自分をさらけ出し、理解してもらい、持っている知恵や経験、厳しさや面白さを惜しみなく与える、この繰り返しにより、その姿を見た部下や後輩が“あなた”を良い上司、先輩に育ててくれると認識することが第一歩と考えています。

平成28年5月14日の関東甲信越診療放射線技師学術大会では、
Freed セミナー企画 「真剣！ シャベリ場～10年後の未来を考える～」
を開催します。

楽しくディスカッションできればと考えていますので奮ってご参加ください。

第2回 埼玉 DR 計測セミナー報告

学術委員
土田 拓治

第二回 DR 計測セミナーが、済生会川口総合病院にて開催された。当日は 17 人の参加者であった。このセミナーの特徴は、初学者が自施設で FPD、CR などの物理特性を取得できるような実習形式を取り入れている。グループ実習では 4, 5 人に分かれ、実器によるデータ取得を体験することで、講師と充実したディスカッションができ、より理解が深まったと思われる。アンケート結果より、来年度の開催を望む声が多く聞かれたことは、企画側のモチベーションも高くなる。

このような体験型セミナーはニーズも高いが、会場を提供してくれる施設の理解が必要である。参加者は、そのあたりを十分留意し、装置を丁寧に扱う気持ちを忘れてはいけない。今回、会場を提供してくれた埼玉県済生会川口総合病院 原澤茂院長および放射線技術科富田科長には、この場を借りてお礼申し上げます。

以下プログラムを記載する。

- 13:10 ~ 14:40 物理特性測定における基礎・Image J Fiji plug in による応用実習
済生会川口総合病院 土田 拓治
- 14:50 ~ 15:30 実習 1；一般撮影機器における物理特性測定（入出力特性、NPS）
済生会川口総合病院 森 一也
- 15:35 ~ 16:15 実習 2；一般撮影機器における物理特性測定（MTF）
上尾中央総合病院 滝口 泰徳
- 16:25 ~ 17:50 実習 3；PC による物理特性解析
EIZO 株式会社 大柿 護
- 18:00 ~ 18:10 閉会式・終了

時間	講義・応用実習	実習 1	実習 2	実習 3
13:10~14:40	A, B, C, D			
14:50~15:30		A(40分)	B(40分)	C, D
15:35~16:15		B(40分)	A(40分)	
16:25~17:05		C(40分)	D(40分)	A, B
17:10~17:50		D(40分)	C(40分)	

平成 27 年度 埼玉県診療放射線技師会認定試験 開催報告 (胸部・上部消化管検査・CT)

学術常務理事
今出 克利

平成 27 年度埼玉県診療放射線技師会認定試験を平成 28 年 3 月 13 日（日）に、さいたま赤十字病院で開催しました。CT 認定では、筆記試験と読影試験に加えて物理特性（NPS・MTF・SSPz）の試験が行われ、16 人が受験し A 認定が 0 人、B 認定が 4 人でした。胸部認定では、胸部単純写真の読影試験および筆記試験が行われ、20 人が受験し A 認定が 0 人、B 認定が 4 人でした。上部消化管検査認定では、普通胃と横胃の 2 症例による画像評価と、読影試験および筆記試験が行われ、4 人が受験し A 認定が 0 人、B 認定が 1 人でした。

認定試験を合格した方々には、各施設において撮影技術向上と精度管理の普及をお願いするとともに、放射線業務の質の向上に努めていただきたいと思います。

最後に、試験会場をご提供いただいた、さいたま赤十字病院の尾形技師長、大森さん、岡田さんに厚くお礼申し上げます。

【CT 認定】

A 認定：該当者なし

B 認定：武田 守市（中島病院）

田中 水悠（上尾中央総合病院）

佐々木 学（上尾中央総合病院）

渡辺 悠紀（熊谷総合病院）

【胸部認定】

A 認定：該当者なし

B 認定：鈴木 友理（済生会川口総合病院）

柴 俊幸（所沢ハートセンター）

伊藤 玲香（上尾中央総合病院）

佐々木 学（上尾中央総合病院）

【上部消化管検査認定】

A 認定：該当者なし

B 認定：小濱 大（埼玉医科大学総合医療センター）



公益社団法人日本診療放射線技師会「業務拡大に伴う統一講習会」 ～通常開催～ 北関東地域（埼玉県）開催報告

学術理事
城處 洋輔

平成 28 年 2 月 20 日（土）、21 日（日）に、日本診療放射線技師会が主催とする業務拡大に伴う統一講習会が、JCHO 埼玉メディカルセンターにて開催された。今回からは静脈注射講習既修了者の制限をなくした通常開催とし、他県からの参加者も合わせ 56 人が 2 日間にわたり受講された。講習の合間には日本診療放射線技師会副会長である小川清氏より法改正から本講習会の意義について解説いただき、講義および実習を通じ業務拡大に伴う必要な知識、技能を習得またはそのきっかけとなったことと思われる。受講生の皆さま、また実習を担当された講師、会場スタッフの皆さまにはこの場をお借りしてお礼申し上げる。

プログラム

平成 28 年 2 月 20 日（土）

- 8：50～ 9：00 開講式・オリエンテーション
- 9：00～ 9：50 講義（DVD 放映）静脈注射関係
- 9：50～ 10：40 講義（DVD 放映）静脈注射関係
- 10：50～ 11：40 講義（DVD 放映）静脈注射関係
- 11：50～ 12：40 実習・演習 静脈注射
- 13：30～ 14：20 講義（DVD 放映）法改正
- 14：20～ 15：10 講義（DVD 放映）IGRT
- 15：20～ 16：10 講義（DVD 放映）IGRT
- 16：10～ 17：00 講義（DVD 放映）IGRT



平成 28 年 2 月 21 日（日）

- 8：50～ 9：00 オリエンテーション
- 9：00～ 9：50 講義（DVD 放映）下部消化管
- 9：50～ 10：40 講義（DVD 放映）下部消化管
- 10：50～ 11：40 講義（DVD 放映）下部消化管
- 11：40～ 12：30 講義（DVD 放映）下部消化管
- 13：20～ 14：10 実習・演習 下部消化管
- 14：20～ 15：10 実習・演習 IGRT
- 15：20～ 16：20 実習・演習 BLS
- 16：30～ 17：20 試験説明および確認試験
- 17：40～ 17：50 閉講式



実習指導者（敬称略）	大森 正司	さいたま赤十字病院
	石田 直之	埼玉医科大学総合医療センター
	佐々木 健	上尾中央総合病院
	八木沢 英樹	JCHO 埼玉メディカルセンター